

職員副業で農業支援

三重・JA伊勢 資質向上も期待

【三重・伊勢】JA伊勢人事部と営農部は、副業による農業支援に取り組んでいる。労働力確保の一環とし

て2022年度から一部地域で取り組みを始め、3年目となる本年度はJA管内全域に拡大して支援する。生産

者の労働力確保だけでなく、JA職員としての資質向上にもつなげる。管内の生産者は人手不足で、最盛期の作業

負担が大きくなっている。職員による農業支援をすることで、生産者の労働力確保や農家所得の向上に寄与することが狙い。日常業務で農業に関わりのない金融・共済部門の職員なども副業として農業支援をでき、農作業を通して農業や生産者への理解を深めることが期待される。

取り組みには、職員の意思尊重、派遣法その関係や職員の安全などを考慮して、既にJAが運営している無料職業紹介所「すまいる@」を活用している。求職者は管理職を除く全職員が対象で、希望

する職員は人事部に求職票を提出する。無料職業紹介所を介してマッチング成立後、雇用関係を締結する。

5月には、求人票を提出した花き生産者7戸に対し、JA職員6人が苗の定植などを支援した。職員は「普段も生産者とお会いする機会はあるが、実際に農作業をすることはなかった。JA職員としてとても勉強になった」と話す。JA人事部の山本久隆部長は「今回の取り組みにより、生産者と職員が農業を通じて、よりよい関係を築けることを期待している」と話す。



ガーベラの苗を定植するJA伊勢職員ら（三重県伊勢市で）